

足利風 -ashikaga-fu

2020
6月号

Vol. 68



絵手紙：齋藤 博

足利市民活動センター

開館時間：平日 午前10時～午後7時
土・日・祝日・第3月曜日休日

〒326-0052

栃木県足利市相生町1-1

TEL 0284 (44) 7311

FAX 0284 (44) 7312

Mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- *特集！
- *TOPICS
- *私のボランティアことはじめ
- *サークル紹介
- *インフォメーション
- *センターからのご案内

望むこと、望まぬこと

「望むこと望まぬこと引き受けて桜は咲きぬ被災地の春」・・・と、福島出身で現在は鹿沼に住む女性が詠っている。東日本大震災と原発事故の影響で住民が避難し、見る者のいない中で懸命に咲き誇る桜に、万感の思いをこめて詠っている。3・11の震災と原発事故、その後の避難指示と続き、線路が赤サビに覆われてから9年。常磐線が3月14日に全線で運行を再開した。全線開通は1898（明治31）年。富国強兵の掛け声とともに全国



から物資や兵士を運び続けた。その後、経済性や効率ばかりを求められる時代に地方は苦闘しつつ、通学・通勤・通院に欠かせない生活路線を懸命に守った。～震災後の9年間、被災地は巨額の復興予算をめぐって「知恵を出せ」とせかされ、住民も役場職員も休む暇なく走り、復興マネーの多くは中央へと吸い取られた。これまでの超特急ではなく、これからは各駅停車の鈍行列車のようなあり方が、東北人には似合っている、と思う。

私自身、福島の現場に立ち、地域コミュニティの在り方を見てきたが、冷静に考えてみると、のっぴきならない仕方で崩れてきたのは、むしろ大都市や郊外のニュータウン、そしてシャッター街化した地方都市の方ではないのかと思える。東洋経済誌が「衝撃！住めない街！」の特集をして、人口減少・インフラの老朽化・財政難・災害の激甚化という絡み合った4つの深刻な問題に、的確に優先順位をつけ、正面から真剣に向き合わなければ、地方都市の多くは破たんに向かうと警鐘を鳴らしている。“新しい公共”という言葉があったが、現在（いま）、地に足の着いたNPOやボランティアが、かつての農漁村の助け合いの仕組み「ゆい（結）」や「もやい」に学びつつ活動しているように、小さな協働の積み重ねの中にしか地方の地域再生はあり得ない、と思う。

（M生）

トッコの愛の詩に感動の渦！

まちの縁側2月21日は、・・・探しても 探しても あなたの望む花がないなら 自分がそれにおなりなさい・・・重度の脳性まひのハンディを背負いながら車いすの詩人として活躍した小曾根俊子さんが主役でした。障がいを持った人の詩に曲をつけて歌う“わたぼうしコンサートの華”だったトッコの人生に参加者みんなが涙を流した。秘められてきたエピソードもご親戚の方から披露され、参加者の感動を呼んでいた。味わい深い集いとなった。

「とちぎ子どもの権利条約ネットワーク」(略称とちこど権) 設立!

三田 和子

一昨年11月3日4日、足利市民プラザ・足利地場産センターを会場に子どもの権利条約フォーラム 2018in とちぎを開催させていただきました。特に会場となった足利市のみなさんのご協力をいただき無事全国フォーラムを終えることができました。

一昨年5月のキックオフミーティングから「出会い」「繋がり」フォーラムへ向かってきた仲間たちが、開催後もせっかくできたこのつながりを絶やさず、フォーラムの開催地であった足利市に事務所をおいてようやく昨年12月15日「とちぎ子どもの権利条約ネットワーク」(略称とちこど権)を設立いたしました。



栃木県内の子ども・若者を取り巻く現状や課題を学びあい、その解決に向けた活動と、さらに子どもの権利条約に関する理解を深め、その理念の普及・啓発活動を通じて、子ども・若者一人ひとりの自己実現を図ることを目的とし、次の5つの事業を柱に活動していきます。

- ①県内の子ども・若者の現状と課題及びその解決に向けた活動の学習
- ②子どもの権利条約に関する学習及びその理念の普及・啓発活動
- ③子どもが主体となっている活動への支援
- ④県内の子ども・若者を支援している団体との情報共有及びネットワーク活動
- ⑤その他これに付随する事業です。

今回の新型コロナウイルス感染拡大など今まで経験したことのない災害にみまわれると、つい大人の都合ばかりが優先されてしまい「子どもの最善の利益」はないがしろにされてしまいます。こういう時こそ私たちは子どもの権利条約という定点から、物事をとらえ「子どもの最善の利益は何か」を追求し、その考え方を普及啓発していかなければならないと思いをあらたにしています。

とちこど権はやっとスタートラインに立ったところです。

日頃から子ども・若者・子育て支援に奮闘している団体および個人が、さらに加えてこの会の活動をしていくことは容易なことではありません。

「無理をせず、身の丈にあった活動を」を合言葉に、ご賛同いただけるみなさま方と少しずつこの輪を栃木県全体に広げていけるよう進んでいきたいと思っております。

足利魅力発信隊

「変えたいなら、まず自分が動く!」をモットーに、足利活性化のために、高校生・大学生や若者の手で、まちづくりを考え、実行するボランティア団体をめざします。もちろん、私たち若者の発想を大事にいただきながら、私たちをご指導していただける大人のみなさん、ご一緒に活動していただける大人のみなさんも歓迎します。これからを生きる私たちは、批判するだけでなく、自分たちが汗をかくことで、この足利を活性化したいと思っています。

代表： 堀越悠斗 (0uz325281c9470s@ezweb.ne.jp)

① インフォメーション ①

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

★6月13日(土) PM1:00～3:00

本:「無私の日本人」(磯田道史) 案内人: 鈴木光尚 さん

ひとこと:“この本は、著者が、これから生きる人々のために、どうしても書いておかなければならないと強く願った、想い溢れる一冊です。日本の歴史に埋もれていた、無私の魂で地域の幸福を願った壮絶な人物の生き様を描いた傑作です。GDPなど経済競争に勝つことだけが人としての「幸せ」ではない!と、いうことを思い知らされました。”

★6月19日(金) PM2:00～4:00

本:「92歳の現役保育士が伝えたい親子で幸せになる子育て」(大川繁子)

案内人: 石川博右さん

ひとこと:ペリー来航よりも前に建てられた築170年の古民家の園舎でいち早くモンテッソーリ教育とアドラー心理学の「いいとこどり」を実践してきた「奇跡の保育園」～小俣幼児生活団。主任保育士を務める大川繁子さんが60年かけて2800人以上の園児たちに教わった子どもがよ～く育つ「コツ」が満載の一冊です。感動と感謝をご一緒に!

★6月26日(金) PM2:00～4:00

本:「10宅論」(隈 研吾) 案内人: 北村 隆 さん

ひとこと:“住宅には隠そうと思っても現れてしまう「顔」がある。また、その逆もある。「顔」は住宅に自ずと備わってくるものです。新国立競技場など話題の建築家・隈 研吾さんの住宅というフィールドで展開される現代日本文化論の数々をお楽しみください。

★7月11日(土) PM1:00～3:00

本:「災害と子ども支援」(安部芳絵) 案内人: 三田和子 さん

ひとこと:“「子どもの権利条約」などを通じて、子どもの持つ力への信頼を基本とした、子ども支援のあり方を研究・実践している新進気鋭の著者が、さまざまな災害復興期の子ども支援そして、まちづくりを、子どもや大人と共に考えるための快心の一冊です。子ども・子育てに広く関心のあるみなさんと一緒に、読み・考えてみる良い機会にしたいと思っています!

■会場: 足利市民活動センター

■参加費: 無料

■お問い合わせ・事務局: 足利市民活動センター ☎44-7311

* センターからのご案内 *

☆交流コーナー ～ 6月・7月のご案内 ～

- * 6月22日(月) ～ 7月 2日(木) “あどもい”展
 - * 7月 6日(月) ～ 7月16日(木) 静と動の日本画 展
 - * 7月21日(火) ～ 7月30日(木) ふるさとの山の四季 写真展
- (土・日・祭日・第3月曜日は休日)

☆相談室&講座のご案内

- * 相談室 = 毎月第2・第4水曜 午後2時～4時 ※詳しくは、別紙参照
- * 講座 = 毎月1回 午後7時～9時 ※詳しくは、別紙参照

編集後記

新型コロナウイルスの影響で困惑の日々が続いていますが、今回の件をきっかけに、自分や周りの人のために何が出来るか、自分の行動を振り返り考える期間になりました。一日も早く元の生活に戻れますよう、みんなで力を合わせて頑張りましょうね。
(すずうさぎ)